

## <新規陽性者の発生動向>

### (1) 大阪府の発生動向

- 緊急事態宣言解除後、2週間で7日間毎の新規陽性者数は2.2倍に増加し、一日平均約172名となっている。  
20・30代新規陽性者数が急増し、他の年代も増加していることから、感染の急拡大が懸念される。

### (2) 市内・市外居住者の発生動向（週・人口10万人あたり）

- 発症日別では、市外居住者新規陽性者数7日間移動平均は2月27日を底として、市内居住者は3月8日を底として増加。  
週・人口10万人あたり新規陽性者数も、市内居住者が横ばいから直近1週間で急増に転じ、分科会指標ステージⅢの基準15人以上を上回った。市外についても、2月末から増加し続けている。
- 年代別では、市内外・各年代ともに大きく増加。
- 感染経路不明者の割合については、市内居住者が7割弱と高い状況が続き、市外も5割を超過。市内外ともに、市中感染拡大の恐れが高まっている。

### (3) 夜の街関連等の発生動向

- 新規陽性者に占める夜の街の関係者及び滞在者の割合も増加傾向にあり、直近5日間だけで2月下旬から3月上旬の2週間の人数と同水準に達している。また、滞在エリアとしては、市外が増加しており、直近5日間の人数が、その前の2週間の人数とほぼ同水準となっている。

### (4) 変異株の状況

- 変異株PCR検査陽性率は28.7%（変異株PCR検査件数540件、変異株PCR陽性者数155人）であり、変異株陽性者の濃厚接触者や接触可能性のある人等を除けば、5.3%（変異株PCR検査件数400件、変異株PCR陽性者数21人）と、3月13日時点の2.7%から増加。

※別途、国が実施した検査で11人が陽性判明

なお、直近1週間の変異株PCR陽性判明率は4.5%（新規陽性者844人、変異株PCR陽性者数38人）となっている。

# 感染状況と医療提供体制の状況について

## <医療提供体制の状況>

- **重症者数が増加に転じ、また、変異株陽性者が原則入院療養となっている影響もあり、軽症中等症病床使用率は3割を超え、運用率は約4割に及んでいる。宿泊療養施設部屋数使用率も増加。**
- **重症者数60人程度で新規陽性者数が増加に転じたことから、第三波のような感染急拡大となれば、約40日後には160人（病床使用率71%）に増加する可能性がある。感染拡大の速度、規模を抑えなければ、医療提供体制が再び早期にひっ迫していく恐れがある。**

## 今後の対応方針について

- **感染拡大の兆候が顕著になり、感染拡大の契機（恒例行事による人流の拡大等）が多いこの時期において、感染再拡大を防ぐために、感染拡大の速度・規模を抑えなければ、1月～2月のような感染急拡大が生じかねない。**  
特に、
  - ・20・30代新規陽性者数の急増により、高齢者等の他の年代への感染拡大につながる恐れが強いこと
  - ・新規陽性者に占める夜の街の関係者及び滞在者の滞在エリアとして市外が増加していることや、時短要請を継続している市内居住者の新規陽性者の急増が見られること
  - ・市内外居住者ともに感染経路不明者の割合が増加していることなどから、**今後の感染急拡大の懸念が高まっている。**  
**引き続き、感染抑制により、医療提供体制への負荷が増大することを防ぐための取組みの継続が必要。**
- **府としては、引き続き、変異株の監視体制を強化するとともに、変異株などによる感染拡大に備え、更なる病床確保など医療提供体制の整備に取り組んでいく。**